

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉球磨地域にある普通科の高校として、心身の自己研さんに励み、これからの予測困難な時代に、郷土愛とグローバルな視野をもったリーダーを育成する。また目標達成に向けて挑戦する力やリーダーとしてふさわしい行動力を発揮し人吉球磨地域の課題解決にも積極的に関わり復興と発展を担う人材を育成する。</p> <p>そのため、世界的な視野に立った学びや探究的な学びに取り組むとともに、生徒の幅広い進路実現に向けて、基礎から発展的な内容まで総合的な学力を身に付け、自ら考え主体的に取り組む教育を目指す。</p> <p>今後は、国の「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の『創造的学習方法実践プログラム』の取組の成果を生かし、ICTを活用した先進的な学びを推進し、国内外の大学や研究機関、企業等と連携して、発信力や論理的思考力を育成するとともに、地域課題解決のために探究的学習を充実し、人吉球磨地域をはじめ世界ともつながる力を育む学びを展開する。</p>
---

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>1 人吉球磨地区ライジング構想とBYHプロジェクトの推進により、3つの力「知識・技能・体験力」「論理的思考力」「発信力」の養成に努める。</p> <p>2 進路指導の充実を図り、進路の多様性を認識した指導を行う。</p> <p>3 時代の変化に応じた生徒指導、部活動指導を行い、学校行事等の活性化・魅力化に努める。</p> <p>4 人権教育、主権者教育、消費者教育と地域との連携を推進する。</p> <p>5 校務改革、働き方改革を進めるとともに、人材育成を図る。</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	広報活動の充実	学校の教育活動及び生徒の活躍の様子の発信	保護者アンケートにおいて、「学校からの情報発信が充実している」と95%以上が回答する。	ホームページの更新、人高NEWS・広報誌の定期的発行、学校要覧やポスターの作成等により、中学生とその保護者向けに学校PR活動を活性化させる。中学校や学習塾個別訪問によるPR活動、オープンスクールや文化祭、100周年記念事業等を通じた学校PR活動を行う。	B	保護者アンケートでは、「HP等を活用して充実した情報発信をしている」の項目において87%と目標を下回った。本年度は、中学校訪問や保護者向け説明会など活発に行った。オープンスクールのアンケートも好評評価であった。ホームページの閲覧者のニーズを具体的に掴み、運用に生かしていくことが今後の課題である。
	働き方改革・業務改革	業務の効率化のためICT活用による環境整備	生徒と向き合う時間の確保のため、ICT活用により従来業務の効率化を図る。	整備されたICT機材の保守管理、環境整備を行う。学校・保護者間連絡システムの導入が円滑に進むよう学校組織全体で連携する。	B	より効率的な朝会連絡の配信やオンラインでの会議資料の配信によってペーパーレス化を行った。また、学校・保護者間連絡システム、文書事務RPAの導入によって、効率的な業務の改善がなされた。複数のサービスのすみ分けが明確にわかるようなシステムづくりが今後の課題である。
		効果的な業務遂行のための職員の意識改革	4月から12月の期間で一人当たり10日以上年の年休取得を目標にし、時間外勤務時間を昨年度の1カ月の平均時間を5時間縮減する。各部・教科で業務内容を見直す。	職員アンケートにより、教職員自身が自らの働き方を意識する。衛生委員会を活用して情報共有と改善策の提示を行う。働き方改革等に関する職員研修を実施する。	B	4月から12月の期間で一人当たり10.86日の年休を取得、時間外勤務時間を昨年度の1ヵ月平均時間を4.71時間縮減し、概ね目標を達成できたものの、県が示す基準は満たしていない状態である。働き方改革に関して、次年度以降の改革について検討を進めている。
学力向上	授業改革	カリキュラムマネジメントと評価システム	生徒の学習意欲の向上につながり、教職員の授業改善に役立つ。	生徒の資質・能力を適切に評価できるよう、学期ごとに計画	B	各教科で授業の改善や評価方法の工夫を重ねているが、肯定的な生徒の意見が7

		<p>ムの構築</p> <p>I C T 運用力向上と授業実践</p>	<p>つような観点別評価を実践し、生徒の学習意欲を昨年度比5%向上させる。</p> <p>I C T 支援員と連携し効率的で効果的な職員研修の充実によって、I C T 運用力を向上させるとともに、特定推進校としての授業実践を他校へ向けて積極的に公開する。</p>	<p>的に評価方法の検討を行い評価の客観性と公平性を高める。</p> <p>現場での活用の有効な即効性のある内容に絞り、年5回の職員研修を実施する。特定推進校として年2回の公開授業を行う。</p>	<p>A</p>	<p>割ほどであり、昨年と同等であった。今後も様々な場面において、学習意欲の向上につながるような取り組みを実践していく。</p> <p>学校運営上必要な時期や需要に応じた内容の研修を年5回実施し、I C T 活用公開授業を2回実施した。職員一人ひとりのI C T スキルや安定的なI C T 運用力の向上、業務効率化に寄与した。</p>
	創造的学習方法の実践	<p>探究的な学びの推進</p> <p>クロスカリキュラム（教科横断的）授業の実践</p>	<p>地域課題解決に向けた探究活動を通して視野を広げ、新たな社会（Society5.0）に必要な資質・能力の育成を目指す。アンケートで有用性があると回答した生徒の割合を7割以上にする。</p> <p>教科・科目の見方や考え方、各教科・科目で育成される資質・能力を探究活動における考えるための技法（思考ツール）として活用できる素地の育成を目指す。アンケートで有用性があると回答した生徒の割合を7割以上にする。</p>	<p>計画に従い、国内外の大学や研究機関、企業等と連携して多様なプログラムを用意して推進する。B Y H I ・ II ・ III 人吉・球磨もいすとプログラム（学校設定科目）を実施する。検証を必ず行い、変更にも柔軟に対応できるようにする。最先端機器を積極的に利活用する。</p> <p>教科の境を超え、クロスカリキュラム授業の実施と研究を行う。授業の調査・研究（職員研修）、指導計画及び評価計画の作成、教材の作成を行い6月から2月まで授業を実践し、1月に総括を行う。教科・学年による図書館の積極的活用を実践する。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>生徒アンケートでは70%が肯定的な評価だった。「人吉球磨ライジング構想」（文科省から3年間指定）の2年目にあたり初年度の課題解決に向けて取り組んだが、V R や A I に関しては十分とはいえない部分があった。</p> <p>生徒アンケートでは肯定的な評価が85%と2年連続して目標を大きく上回り好評だったことがわかる。今年度は人吉高校創立百周年記念事業等との絡みで、クロスカリキュラム授業の回数が減ってしまった事が反省点として挙げられる。3学期2月以降に実施を予定している先生もいることから、実践には前向きである。</p>
キャリア教育（進路指導）	<p>進路意識の高揚</p> <p>キャリア・パスポートの活用および地域との協働</p>	<p>進路に関する情報提供</p> <p>キャリア・パスポートの活用および地域との協働</p>	<p>生徒保護者アンケートで「適切に提供されている」などの肯定的な回答を92%以上にする。</p> <p>保護者アンケートにおいて「校外活動を通して地域と関わっている」などの肯定的な回答を50%以上にする。</p>	<p>道標や進路資料を用いた保護者説明会の充実、文理選択説明会の充実、上級学校への入試や奨学金に関する適切な資料の提供の充実を図る。</p> <p>役場や地元企業との協働の場の提供やボランティア活動、インターンシップを充実させる。Chromebook等でポートフォリオを活用した面談や進路指導を行う。</p>	<p>B</p> <p>B</p>	<p>肯定的な意見は、生徒が89%、保護者が83%、職員が94%であった。Google Classroomでの配信、保護者説明会、各学年からの連絡等今後も様々な機会を活用し、多様な進路情報の発信を行っていく。</p> <p>保護者の肯定的な回答は40%と昨年比6%増で、今年度本校生徒はボランティア活動だけでなくインターンシップへの参加が充実した。低学年時から面談や学年での情報共有を密に行い、適切な情報共有ができていく。</p>
	個に応じた指導の充実	<p>月金7限目活用およびプロジェクト（難関大希望生徒の進路実現）の推進</p>	<p>生徒アンケートで「学力の向上を実感している」などの肯定的な回答を90%以上にする。難関大希望生徒の進路実現を後</p>	<p>自学や補習活動の支援を充実させ入試問題分析会議の充実、担任面談や教科担当者の個別指導の系統化およびその伝承、</p>	<p>B</p>	<p>生徒の肯定的な回答は84%であったが、保護者の回答では子供の家庭学習や学力向上に関する評価は前年より向上している。月曜・金曜の放課後や定期考査前の学</p>

			押しする。	担当者会議による対応協議と検討会による周知を行う。		力支援は引き続き充実している。3年生への全職員での面接指導等も行い、様々な個に対する指導やその工夫の継承は今後も行う。
	自立的・自律的に生きる力の育成	社会の変化に対応できる資質や能力を身につける	BYHの推進と実施内容のさらなる充実を図り、多様で複層的な学びの機会を与え、主体的に取り組む生徒を増やす。アンケートで有用性があると回答した生徒の割合を7割以上にする。	BYHプログラム（探究活動）、グローバル教育活動、地域との連携活動に重点を置き、生徒が主体的に学ぶ力の育成につなげる。	A	BYHプログラム発表会をはじめとする様々な発表の場において、指導に直接関わった職員や地域の方々から、生徒の主体的に学ぶ力が付いたとの評価をいただいた。「BYHの探究活動が充実してきて、生徒は確実に変容している。」と感じていると80%の職員がアンケートに回答した。
生徒指導	三綱領「礼節・勤労・進取」の精神の涵養と意欲的・主体的に行動する生徒の育成	校則の改定と落ち着いた学校生活	生徒アンケートで関連質問に対する肯定的回答を90%以上にする。	基本的な生活習慣に対する日常の指導を行う。	A	93%が肯定的な意見である。残り7%の生徒の指導の在り方を考えたい。
		自己肯定感の育成	生徒アンケートで関連質問に対する肯定的回答を60%以上にする。	学校行事や日常の中でPDCAサイクルを取り入れ、その過程を評価する。	A	学校評価アンケートで「自分自身がかけがえのない大切な存在だと思う」に肯定的回答の割合が88%、「必要とされている」の割合が81%、「学校行事に積極的に参加」の割合が96%であった。今後も「認めほめ励ます」を継続したい。
	文武両道の推進	部活動・ボランティア活動を含めた全人教育	生徒アンケートで関連質問に対する肯定的回答が90%以上になる。	キャプテン・部長会議等を行い、意見交換する。ボランティアの体験談を生徒に伝える。	B	「部活動」は94%が、「ボランティア」は46%が自主的に参加と回答。ボランティア参加には個人差があるようだ。
人権教育の推進	道徳教育と人権教育の推進	職員の人権意識の向上	アンケートの関連質問において、教職員および生徒の80%以上が肯定的回答をする。	職員研修を実施するとともに、校外人権教育関係行事への参加を促し、人権教育推進委員会を活性化させる。	A	生徒の91(前年94)%、職員の96(前年87)%が肯定的回答。水俣病講演会、部落差別、LGBTQ等の人権問題について研修を行った。
		生徒の人権意識の向上	アンケート関連項目の、教職員および生徒の80%以上が肯定的回答をする。	人権教育LHR及び人権教育講演会を実施する。	A	ケータイ安全教室、発達障がい、DV未然防止の講演会、水俣病講演会、進路保障LHRを実施した。生徒91%、職員96%が肯定的回答。
	「命を大切にす心」を育む教育の充実	「自他を大切にす心」教育の実践	各講話、授業等のアンケートで「命、自他を大切にす意識の向上に役立った」の回答を85%以上にする。	ストレス対処教育（ソーシャルスキルトレーニング）、性教育講演会等を実施する。	A	ストレス対処教育（人間関係作りプログラム、ストレスマネジメントに関するSC講話等）を1・2年生は各3回、3年生は1回実施し、各アンケートで98%以上が「役に立つ」と回答した。性教育講演会は「役に立つ」と97.3%が回答した。
いじめの防止等	いじめの早期発見	いじめの早期発見と対応	アンケート調査により、「いじめをなくす取組が行われている」と90%以上の生徒が回答する。	定期的にアンケート調査を実施し、いじめの早期発見に努める。	B	77%が肯定的な意見であった。否定的な意見を持つ生徒のためにも、来年度はいじめについての講演会を企画したい。
	いじめ根絶への取組	生徒会によるいじめ根絶の呼びかけ いじめ対策委	生徒会によるいじめ防止の取組を様々な実施する。 いじめの解消率100	生徒会による「いじめの防止標語」の募集等に取り組む。 学年・生徒部・教育	B B	人権集会ではLGBTQ人権問題をとりあげ、いじめ撲滅宣言を行った。 1月現在で3件のいじめを

		委員会の活性化	%を目指す。	相談部を中心に速やかにいじめの解消に向けて取り組みを行い、解消率100%を目指す。解消後の支援も行う。		認知している。いずれも継続指導中である。
地域連携(コミュニティスクールなど)	社会に開かれた学校づくり	総合型コミュニティスクールによる地域との連携	文部科学省の指定事業に当たり地域連携および情報交換を深め、本校の教育活動への理解と信頼、協力を得る。	生徒の探究的学びに関して、地域との協力体制を整備する。地域人材が本校に向いて行う活動、本校生が地域に出る活動を併せて20回以上実施する。	A	具体的な方策の20回は優に超えている。文科省指定事業において、コーディネーターのはたらきかけにより地域の方々(延べ30人)に来校していただきアドバイザーとして、探究活動のテーマ設定等でご助言いただいた。また、生徒も研究のために地域に向いて活動する様子がメディアなどにも多く取り上げられた。
		保護者や地域関連機関との連携の確立	保護者アンケートにおいて、学校と保護者との連携がとれているという回答を80%以上の好回答にする。	秀麗会の学年委員会や常任委員会(総務・広報・進路生活)活動と担当職員との連携を強化し、生徒・保護者のニーズに合った総務活動(文化祭や滞行)、進路活動(大学訪問)や広報誌「秀麗」を定期的に発行する。	B	保護者アンケートでは、連携がとれているという回答が72%で目標を下回った。また、昨年度より0.1%下回っている。今年は、本部役員会、各委員会の会議や打合せが多く行われており、学校と秀麗会役員との連携は取れているが、すべての保護者への連絡が円滑でなかったことが原因ではないかと思われる。

#### 4 学校関係者評価

##### (1) 学校経営

- ・いじめの件数や不登校の状況など、アンケートでは見えない部分があると、不本意入学につながる恐れもあるため、可能な限りそのような情報を伝えてほしい。
- ・先生方が協力して指導にあたっておられることが総体的に感じられ、感謝している。

##### (2) 学力向上について

- ・学習面では個人差が大きくなってきているが、その差が非常に大きいのではないかと思っている。学習面で課題がある生徒もやる気をもっていける体制を作って欲しい。
- ・アンケートより、先生方が幅広い層の生徒に対して理解できる授業、個に対応する授業を実践しておられることがわかった。職員の努力がうかがえ、今後も期待したい。

##### (3) キャリア教育(進路指導)について

- ・少子高齢化について、特にこの地域は進んでいる。将来的にこの地域を心配している。高校生の頃から地域と関わってもらおうと地域の改善点などもわかるのではないか。まちづくりについて話をしているが、若い人たちの意見をもっと聞かせてほしい。
- ・創造的学習方法実践プログラムの発表が盛大に行われており、今後も是非協力していきたい。

##### (4) 生徒指導について

- ・アンケートの中で相談や面談について、生徒・保護者と職員の間ギャップがあるが、埋めようとするのか、割り切っていくのか。面談の機会を増やすというのではなく、その役割を地域に振るなどの考え方もあっては良いのではないか。ズレは深刻な問題にはなっていないと思う。
- ・中学校でも地域に出て教育活動を行う機会が増えた。地域の祭りで中学生が神輿を担いでいる。地域に貢献、地域に出かけるよい機会となっている。地域の方に見てもらって褒めてもらうことで自己肯定感が高まる機会になるのではないか。

##### (5) いじめの防止等について

- ・いじめの問題については現在でも自死の問題であったり、卒業してから裁判になるようなことがあったりすることがあるので、いじめの早期発見は難しいかもしれないができるだけ早めにいじめられている生徒をキャッチしてその対応を細やかに丁寧にしていく必要があると思う。

##### (6) 地域連携について

- ・ボランティア活動に参加することが一番良いと思うが、募金などのできることや、ボラ

ンティアについて知る場面を作っても良いのではないかと。講演などで学んでから参加してもよいと思う。背中を押してもらおうと参加しやすいと卒業生が言っていた。

- ・昨年度は、保護者のアンケート回答率が低く、回答しないのは否定的な考え方が多いと話をしたが、今年度の回答率は高く、否定的な回答も少なくてよかった。
- ・主権者教育や消費者教育、またボランティア活動など、外部と連携できることは大いに活用していただきたい。ボランティアについては背中を押してやると動けるのではないかと。この地域の人口減少について、地域を担う人材の育成は切実な願いであり、熊本県立大生との会議には人高生も参加してくれた。今後も参加をお願いしたい。

## 5 総合評価

本校のスクールミッションの中にある「これからの予測困難な時代に、郷土愛とグローバルな視野をもったリーダーを育成する。また目標達成に向けて挑戦する力やリーダーとしてふさわしい行動力を発揮し、人吉球磨地域の課題解決にも積極的に関わり復興と発展を担う人材を育成する。」という目標を達成すべく、職員一丸となってそれぞれの役割を果たしている。本年度の重点目標として、文部科学省指定事業である「創造的学習方法実践プログラム（人吉球磨ライジング構想）」と「BYHプロジェクト」の推進により、様々な授業改革および探究的な学びの創出に向けた取組を推進してきた。

また、創立100周年記念事業について、同窓会、秀麗会、学校の横断的な実行委員会の組織のもと、計画的に実行することができた。

### (1) 学校経営について

学校行事の満足度や部活動の充実度は総じて高く、本校の魅力のアップに役立っている。職員の時間外勤務時間が多いという現状があることから、業務時間削減、業務内容精選を意識した働き方改革について検討を進めており、来年度から一部実施する予定である。

### (2) 学力向上について

文部科学省の指定事業における「BYH（探究活動）」と「クロスカリキュラム」を軸に、研究主任を中心に教育活動の改革に取り組んでいる。全職員を巻き込んだ改革の動きになっている。新教育課程上の「指導と評価の一体化」への取組と併せ、主体的で深い学びに裏付けられた学力の養成に力を入れている。

### (3) キャリア教育について

多様な進路希望（大学進学から民間就職まで）に対応する指導体制ができていて、時代の動きに合わせながら、生徒へ最良のキャリア教育を提供している。進路情報だけでなくインターンシップ、BYH関連の「地元で活躍している大人の講話」、フィールドワークなど、すべての教育活動が有機的に生徒のキャリア（進路）指導につながる。ボランティアや地域活動への参加も含め、今後も良質なものを生徒へ提供したい。

### (4) 生徒指導について

総じて落ち着いた生活態度が本校生の特徴であるが、全県レベルで校則を大改定する中、人吉高校生にふさわしい校則とは何か、を生徒保護者ととともに求めていく必要がある。メンタル面で配慮の必要な生徒も増加している。

### (5) 人権教育の推進について

自他を大切にすることを育み人権意識を向上させる目標に従い、職員向け生徒向けに様々な仕掛けを用意している。次項のいじめの防止に密接につながるテーマであるので、一体であるという意識が必要である。

### (6) いじめの防止等について

いじめ対策について認知件数は3件で、継続指導中である。アンケートによると「本校ではいじめをなくす取組が行われている」という質問に対し、肯定的な回答が生徒75%、保護者68%、職員94%の結果となっている。この差に注目する必要はある。

### (7) 地域連携（コミュニティスクールなど）について

文科省指定事業の本校の組織にコンソーシアムを編成し、地域の人材をメインに20回以上の外部講師講演を企画実施した。また秀麗会や同窓会と連携した活動も実施できた。復興に向けて自治体や経済団体は高校生の視点や行動力に期待しており、そのような地域活動はできるだけ協力している。YouTubeチャンネル「ぎゃんとこ人吉ch」もその一つである。

## 6 次年度への課題・改善方策

【課題】働き方改革：時間外勤務時間が多いという課題

【改善方策】

ここ数年、数値の面では年々改善が見られているものの、県の示す指針には程遠い上、個別には100時間を超える職員多数が見られる。「業務時間削減」「業務内容精選」を意識した働き方改革について検討を進めており、来年度から実践することで、職員の時間外勤務の時間を減らす対策をする。

【課題】生徒募集：学校の魅力をアップし、いかにして生徒を確保していくか

**【改善方策】**

令和5年度入試では前年比+68名の志願者増であったが、令和6年度入試では前年比-47名の志願者減であった。人吉・球磨地域の児童生徒数が減少していく中、地域の高校とスクラムを組んで魅力をアピールするなどの体制作りを改めて進める必要がある。

**【課題】** 学習指導：幅広い学力層に対する教科指導や進路指導の在り方について

**【改善方策】**

年々、入学してくる生徒の学力の幅が広がっていく一方、共通テストでは教科・問題数・試験時間の増加や科目の変更等、必要とされる学習内容が増えることとなる。働き方改革と合わせて行事等の精選を行い、さらに効果的な学習指導体制の見直しを図る。